



交流しながら観戦客らを迎え入れる姿勢や
思いを共有する参加者＝22日、釜石市大町

ボランティアが思い共有

かまいし
応援団

交流会で活動を発表

ラグビーワールドカップ「ろう」と呼び掛けた。

(W杯) 2019釜石開催実
行委(委員長・達増知事)は
22日、釜石市大町の釜石PI
Tで、同実行委が独自に募集
するボランティア「いわて・
かまいしラグビー応援団」の
活動交流会を開いた。講演や
事例報告を通じてグループ同
士の交流の輪を広げ、大会成
功に向けた思いを共有した。

約100人が参加。同応援
団公式アドバイザーを務める
東京都の中小企業経営コンサ
ルタント村尾隆介さん(45)が
講演し、「ファンをつくるに
は自ら楽しんで活動すること
が大切だ。釜石で試合をする
4カ国に関心を持ち、ラグビ
ーに積極的に関わり、歩み寄

応援団に登録する市内外の
4団体が、花いっぱい運動や
清掃活動、市内の児童生徒が
関わった巨大壁画制作などの
活動を発表し、幅広い世代に
よる多様な視点での取り組み
を共有した。

観戦客らに贈るポケットテ
ィッシュケース作りに励む同
市野田町の市川みえ子さん
(71)は「外国の方も喜ぶよう
に笑顔で接したい。どう迎え
入れるか改めて考える機会に
なった」と充実感をにじませ
た。

同実行委によると、6月14
日現在の同応援団は県内外1
64団体。活動人数は延べ約
2万3千人に上る。